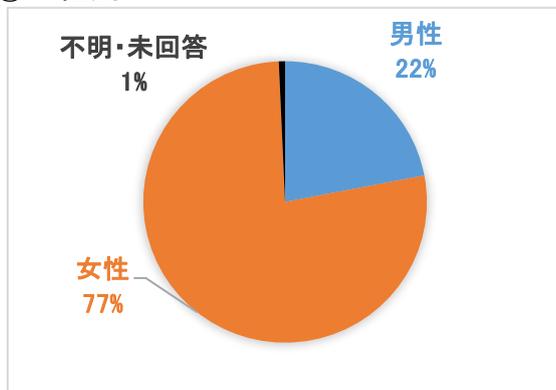


外国人介護人材実態調査結果概要

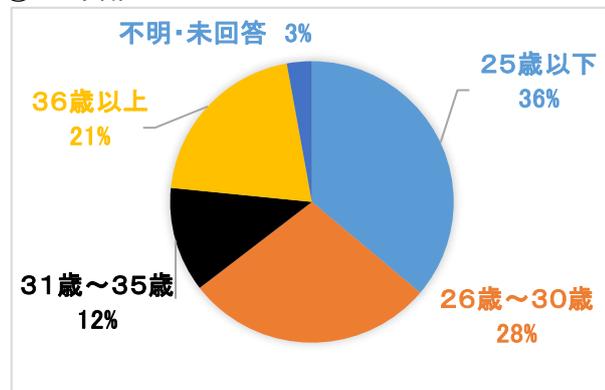
- 調査期間 令和5年8月～9月〔県外国人介護人材支援センターとの連携による〕
- 調査対象 (1) 県内事業所で就労する外国人介護職員 153名
(2) 県内介護事業所の運営法人 333法人
- 回答数 (1) 141名(回答率：92%)
事業所を通して母国語のアンケート用紙を本人に配布し、本人から直接回収
(2) 254法人(回答率：76%)
- 調査結果 以下のとおり

(1) 外国人介護職員向け調査

① 性別



② 年齢



③ 国籍

ミャンマー	51人	36.2%	中国	10人	7.1%
ベトナム	26人	18.5%	韓国	4人	2.8%
フィリピン	20人	14.2%	タイ	3人	2.1%
モンゴル	14人	9.9%			
インドネシア	13人	9.2%	合計	141人	100.0%

④ 在留資格

EPA（経済連携協定）介護福祉士候補者	【最長4年】	13人	9.2%
EPA（経済連携協定）介護福祉士（資格取得者）	【無期限】	1人	0.7%
技能実習	【最長5年】	33人	23.4%
特定技能	〃	65人	46.1%
在留資格「介護」（介護福祉士資格取得者）	【無期限】	5人	3.5%
日本人の配偶者	〃	8人	5.7%
永住者	〃	8人	5.7%
永住者の配偶者	〃	1人	0.7%
不明・未記入		7人	5.0%
合計		141人	100.0%

⑤ 就労している施設

入所系 施設	特別養護老人ホーム	57人	40.4%
	介護老人保健施設	33人	23.4%
	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	17人	12.2%
	有料老人ホーム	9人	6.4%
	その他の施設	18人	12.8%
通所介護		7人	5.0%
合計		141人	100.0%

⑥ 普段の生活での日本語

およそ8割の職員が日本語での会話に、9割の職員が読み書きに困ることがある。

普段の生活で日本語での会話に困ること

よくある	18人	12.8%
ときどきある	94人	66.7%
あまりない	25人	17.7%
まったくない	4人	2.8%

普段の生活で日本語の読み書きに困ること

よくある	30人	21.3%
ときどきある	94人	66.7%
あまりない	15人	10.6%
まったくない	2人	1.4%

⑦ 日本語以外で困っていること

「収入・経済面に関すること」が最も多く、次いで「生活習慣の違い」、「人間関係」、「交通の便」となっている。

日本語の会話、読み書き以外で困っていること(複数回答)

給料が低い	46	18.6%
母国へ仕送りするお金が足りない	42	17.0%
出身国と日本の生活習慣の違い	37	15.0%
生活費が足りない	18	7.3%
職場の他職員との関わり方	17	6.9%
職場の利用者との関わり方	9	3.6%
友人、相談相手がいない	9	3.6%
宗教の違い	8	3.3%
住んでいる地域の方との関わり方	2	0.8%
その他(バス・タクシーの乗り方、バス停が近くにない、休日が少ない など)	13	5.3%
困っていることはない	41	16.6%
不明・未記入	5	2.0%

⑧ 介護福祉士の資格

1割の職員が介護福祉士の資格を取得しており、75%の職員が資格取得を目指している。

持っている。	16人	11.3%
<u>持っていないが、取得する予定である。</u>	<u>106人</u>	<u>75.2%</u>
持っていない、取得する予定もない。	17人	12.1%
不明・未記入	2人	1.4%
合計	141人	100.0%

⑨ 生活の満足度

7割近い職員が山形での生活を概ね満足と感じられており、満足の理由は、「自然が豊か」、「空気や水がおいしい」、「食べ物がおいしい」、「周りの人が優しい」など。不満の理由は、「給料が低い」、「交通が不便」、「買い物が不便」などが多い。

満足	48人	34.0%
やや満足	48人	34.0%
どちらともいえない	33人	23.4%
やや不満	9人	6.4%
不満	3人	2.2%
不明・未記入	0人	0.0%
合計	141人	100.0%

⑩ 仕事の満足度

およそ8割の職員が仕事に満足しており、その理由は「上司や職員が優しく仕事を教えてくれる」、「仕事にやりがいを感じる」、「労働環境が良い」など。不満の理由は、「給料が低いこと」、「日本語が難しいこと」などが多い。

満足	80人	56.8%
やや満足	33人	23.4%
どちらともいえない	21人	14.9%
やや不満	4人	2.8%
不満	2人	1.4%
不明・未記入	1人	0.7%
合計	141人	100.0%

(2) 事業所向け調査

① 外国人を雇用するうえでの課題

受け入れ前後の作業（住居や生活用品の確保等）、継続したフォロー（買い物支援、冬季間の送迎等）、採用前後の費用（紹介料、日本語教育費等）が課題となっている。

外国人介護人材を雇用する上で、課題だと感じていること(複数回答)

受け入れ前後の作業、継続したフォローが大変	166	18.6%
利用者とのコミュニケーションが取れるか不安	158	17.7%
日本人職員とのコミュニケーションが取れるか不安	121	13.5%
宗教、文化、生活習慣の違いがあること	112	12.5%
採用後のフォローに高額な費用が発生する	105	11.8%
採用に高額な費用が発生する	96	10.8%
日本人並みの介護スキルが得られるか不安	70	7.8%
外国人介護人材を雇用するルートが判らない	50	5.6%
その他	15	1.7%

② 外国人を雇用するために必要な支援

日本語や介護技術の勉強、日本の生活ルールの教育のほか、経済的援助（住まい、通勤、生活用品等）を必要とする声が多い。

今後、外国人介護人材を雇用するにあたり必要と思われる支援(複数回答)

雇用後の日本語の勉強	184	20.3%
雇用後の日本生活ルール、マナー・他の教育	182	20.1%
雇用後の介護技術（基礎）の勉強	141	15.5%
雇用前の本人の希望や適性を知る方法	137	15.1%
経済的な援助	127	14.0%
雇用後の介護技術（介護福祉士）の勉強	124	13.7%
その他	12	1.3%

令和6年度における主な施策（予定）展開

（令和6年度当初予算要求事業を含む）

**外国人介護人材支援センターの機能を強化し、
学習支援、生活支援を拡充し、県内定着を図る。**

1 外国人介護職員向けキャリアアップ支援 **【新規】**

長期就労が可能となる国家資格（介護福祉士）合格に向けた支援を実施

2 地域生活学習交流会の開催 **【拡充】**

本県の文化や食生活を紹介する交流イベントを開催

3 相談窓口・定期巡回相談対応 **【継続】**

外国人介護職員や受入事業所の悩みや困りごとを把握し、問題解決に向け支援

4 事業者向け説明会 **【継続】**

各在留資格の制度の説明、受入れ事例や各国の最新情報を紹介

5 外国人介護職員の生活・学習への補助 **【継続】**

受入事業者に対し、外国人介護職員の生活環境の整備等に要する費用について支援